

1	調査方法等の検討	1-1
	1-1 調査方法	1-1
	1-2 調査対象	1-4
	1-3 調査項目	1-6
	1-4 調査時期	1-6

2	前提条件の整理	2-1
	2-1 前橋市景観計画における景観類型の整理	2-1
	2-2 関連する市の都市計画及び地区計画の整理	2-3

3	現況調査	3-1
	3-1 広瀬川河畔地区(千代田町三丁目地区を含有)	3-1
	3-2 けやき通り地区	3-28
	3-3 前橋駅南口地区	3-46
	3-4 新前橋駅南地区	3-57
	3-5 富田地区	3-X
	3-6 五代南部団地地区	3-X
	3-7 多田山産業団地地区	3-X
	3-8 前橋問屋団地地区	3-X
	3-9 新前橋駅第二・第三地区	3-X
	3-10 JR前橋駅周辺地区	3-X
	3-11 定点観測でみる季節の変化	3-X

4	分析と課題の抽出	4-1
	4-1 広瀬川河畔地区(千代田町三丁目地区を含有)	4-1
	4-2 千代田町三丁目地区	4-5
	4-3 けやき通り地区	4-9
	4-4 前橋駅南口地区	4-13
	4-5 新前橋駅南地区	4-17
	4-6 富田地区	4-X
	4-7 五代南部団地地区	4-X
	4-8 多田山産業団地地区	4-X
	4-9 前橋問屋団地地区	4-X
	4-10 新前橋駅第二・第三地区	4-X
	4-11 JR前橋駅周辺地区	4-X

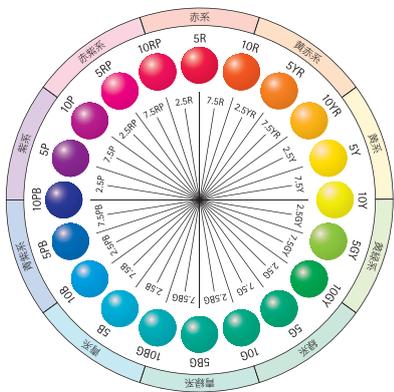
1

調査方法等の検討

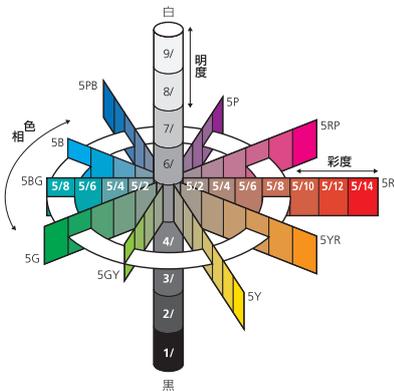


1-1

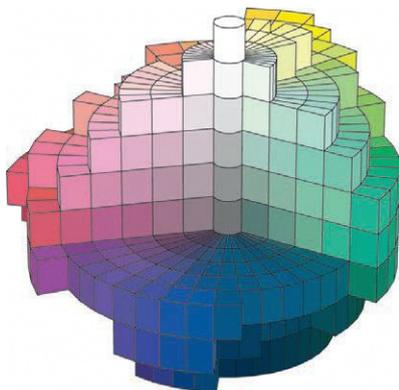
調査方法



■ 図 マンセル色相環



■ 図 マンセル色立体の構造



■ 図 マンセル色立体の断面

1-1-1 本調査における表色の方法

本調査においては、景観要素の色彩を客観的に数量化することのできるマンセル表色系を採用し、色彩計測を行う。

本調査では、「赤」や「青」といった色名や「げげげばしい色彩」などの形容動詞による従来の表記も一部で用いながら、データ等精度が要求されるものについては、国際的な表色系であり、JIS規格などにも採用されている「マンセル表色系」を用い、より客観的に表記することとする。

1-1-2 マンセル表色系

(1) 色相

色相は色合いを表す。10種の基本色赤(R)・黄(Y)・緑(G)・青(B)・紫(P)・黄赤(YR)・黄緑(GY)・青緑(BG)・青紫(PB)・赤紫(RP)と数字を組み合わせ、10YRや5Yなどと表記する。なお10Rと0YR、10YRと0Yは同意である。

(2) 明度

明度は明るさを0から10の数値で表す。数値が10に近づくほど明るさが増す。無彩色は、最初にニュートラルの意味を示す「N」をつけてN9などと表記する。

(3) 彩度

彩度は鮮やかさを0から14までの数字で表す。無彩色の彩度は0であり、色味が増すのに従い数値も大きくなる。各色相で最も鮮やかな色彩を示す最高彩度は色相によって異なり、JIS標準色票では、赤・黄系の最高彩度が14程度、青系の最高彩度が8から10程度である。

(4) マンセル記号

これら3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号である。またこれらの三属性に実際に色を置いてみると、立体のようになることが分かる。これを「マンセル色立体」と呼ぶ。

1-1-3 視感測色法による色彩の計測

調査用色票 (JIS 標準色票) を現場で対象物に近接させ、比較類推によってに色彩を計測する視感測色法を採用する。

人間の色覚は 700 万～ 800 万色の色彩を識別することができるといわれており、マンセル色票と対象物の色彩を類推することにより、精度の高い色彩計測を行うことが可能である。

また、デジタル写真によって対象物を写真撮影し、建築材料や色彩の使われ方などを記録する。

これらの現地調査資料を、調査結果の一覧表や後述の「マンセル色度図」などに整理し、データとしてとりまとめ、評価・分析の基礎資料とする。



■図 JIS 色票を用いた視感測色の様子

京観色彩調査票		地区		No.
名称		規模	階建	調査日
				写真
建築物・工作物				
建物用途	住居系	戸建住宅 集合住宅 店舗併用住宅	その他 ()	
	商業・業務系	物販 飲食 サービス 商業ビル 業務ビル	その他 ()	
	工業系	工場 倉庫 設備機器類	その他 ()	
	公共施設	教育 公民館 福祉・医療 行政庁舎	その他 ()	
		路面舗装 ポール類 塋類 橋梁	その他 ()	
色彩	部位	材質	マンセル値	備考
	外壁	基調色		
	屋根			
	その他			
屋外広告物				
種別	屋上 壁面 壁面突出 独立 (敷地内 野立て) その他 ()			
管理	自家用 非自家用 公共 その他 ()			
色彩	部位	材質	マンセル値	備考
	地色			
	図・マーク			
	文字			
	その他			

略号 フ：敷掛けタイル リ：リソント ト：塗装 サ：サイディング タ：タイル コ：コンクリート キ：金属板 木：木材 シ：漆喰 土：土壁
ワ：和瓦 ヨ：洋瓦 スレ：スレート 化：化粧スレート アシ：シングル トキ：塗装金属板 ア：アルミ プラ：プラスチック ビニ：ビニルテント

■図 調査用紙

1-1-4 色度図による色彩の現状分析

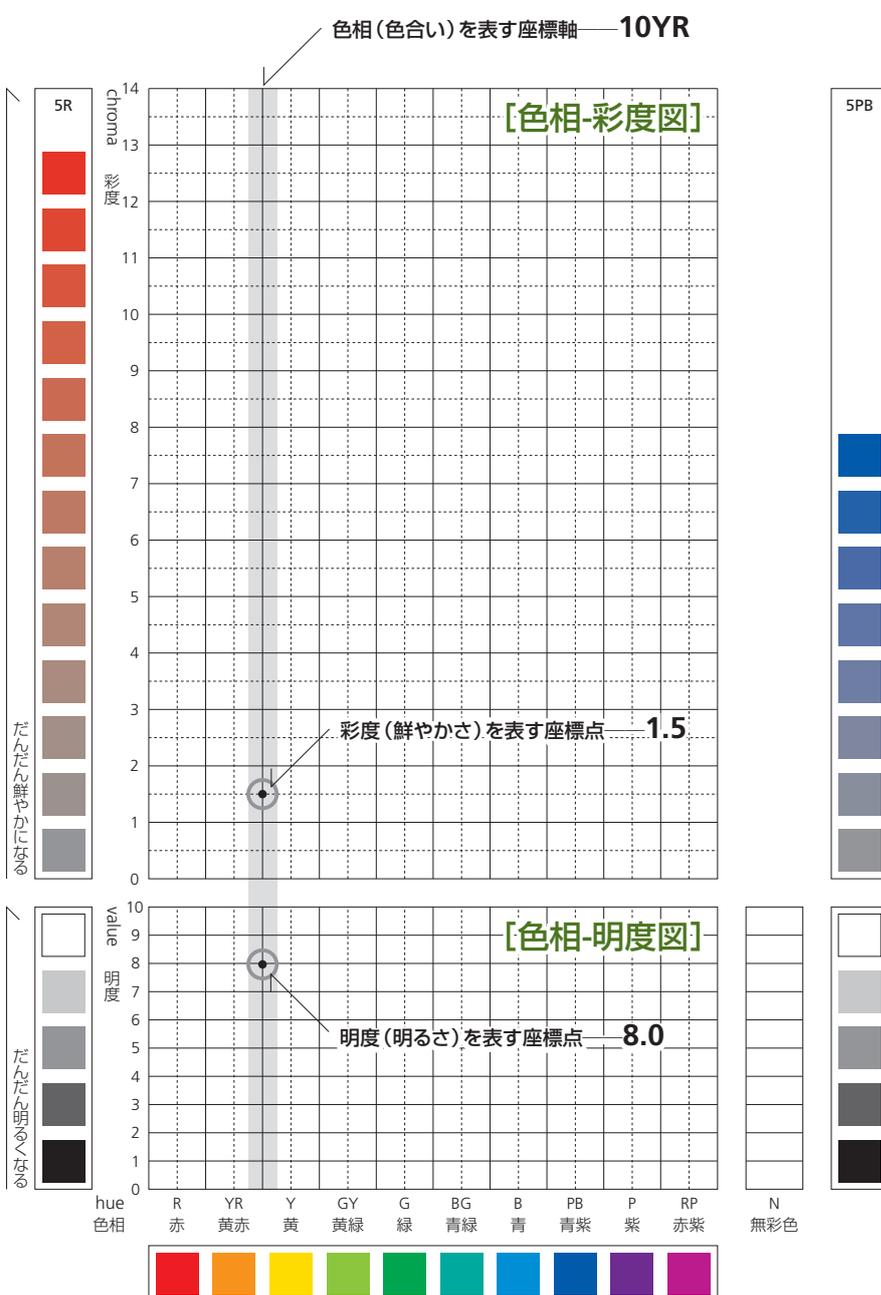
本調査においては、現地調査によって得られた色彩の測定値を、次のような散布図に変換し、分布状況や傾向等を評価する方法を採用した。

この散布図は、マンセル表色系による色度分布を表す図であるため「マンセル色度図」と呼ばれている。

マンセル色度図は、色相、明度、彩度による三次元立体によって表される色の分布を、二次元平面に置き換えて座標化したものである。

このため、二次元表現では、〈色相－明度〉と〈色相－彩度〉の2つの図からなり、2つの点で1つの色彩を表すこととなる。

マンセル色度図においては、例えば10YR8.0/1.5というマンセル値は、下図の2点で示される。



■図 マンセル色度図による色彩の表し方

■表 地区の実情を踏まえた調査数量及び調査範囲の検討

地区名称	地区の実情							検討内容	
	当初決定	面積 (ha)	類型	形態意匠制限の要旨 (色彩関係)	色彩制限の強度	建築物の概数	調査棟数	イメージ	備考
広瀬川河畔地区	H30.4	約5.0	商業	広瀬川や河畔緑地の樹木・花木などの自然が主役となるような色彩 安全標識などより目立つ色彩の使用は避ける	★★★★☆	80	80		
けやき通り地区	H14.3	約4.0	商業	通りの景観を損なわないよう周囲との調和に配慮する 高彩度色を使用する場合は、低層部にアクセントカラーとして使用することに限定する	★★★★☆	50	50		
前橋駅南口地区	H3.6.1	2.0	商業・業務	前橋駅南通線又は前橋駅環状線に接する建築物の外壁の色彩は、白又は茶色を基調としたもの	★★★★★	30	30		
新前橋駅南地区	H3.6.1	2.5	商業・業務	建築物の外壁、屋根などの色彩は、刺激的な原色や蛍光色などを避け、周辺環境と調和した落ち着いたもの	★★☆☆☆	30	30		住宅展示場は含まない
富田地区	H11.8.24	70.1	住宅	建築物の外壁は、刺激的な色彩又は装飾を用いない 屋外広告物は自家用に限定、かつ美観・風致を損なわない	★★★★☆	300超	90~100		千代田町三丁目地区で想定していた調査数を、本地区に充てる
五代南部団地地区	H15.11.5	4.3	住宅	建築物の外壁は、刺激的な色彩又は装飾を用いない 屋外広告物は自家用に限定、かつ美観・風致を損なわない	★★★★☆	30	30		
多田山産業団地地区	H23.11.28	2.6	住宅	建築物は、刺激的な色彩又は装飾を用いない 屋外広告物は自家用に限定、かつ美観・風致を損なわない	★★☆☆☆	5	5		
千代田町三丁目地区	H25.3.8	0.6	住宅・商業	建築物等の形態、色彩その他の意匠は、周辺環境に調和するもの 屋外広告物は自家用に限定、かつ美観・風致を損なわない	★★★★☆	40	—		広瀬川河畔地区の調査に含まれる
前橋問屋団地地区	H26.10.2	13.8	工業・流通	建築物の外壁、屋根などの色彩は、刺激的な原色や蛍光色などを避け、周辺環境と調和した落ち着いたもの	★★☆☆☆	100	30		地区内主要道路沿い・大規模
新前橋駅前第二・第三地区	H30.3.15	9.0	商業・業務	建築物の外壁、屋根などの色彩は、刺激的な原色や蛍光色などを避け、周辺環境と調和した落ち着いたもの	★★☆☆☆	50	30		地区内主要道路沿い・大規模
JR前橋駅周辺地区	H30.5.1	8.0	商業・業務	建築物の外壁、屋根などの色彩は、刺激的な原色や蛍光色などを避け、周辺環境と調和した落ち着いたもの	★★★★☆	30	30		
						合計	405~415		

3

現況調査



3-1

広瀬川河畔地区 (千代田町三丁目地区を含有)

3-1-1 地区の概要

- 広瀬川河畔地区は、市の中心市街地を流れる広瀬川のうち、厩橋から久留間橋までの約 550m の区間とその周辺地域である。
- 広瀬川河畔地区は、江戸時代に物資を運ぶ舟運などで栄えた地区である。
- 現在は沿岸の沿岸の親水施設が整備され、水量をたたえる広瀬川と河畔の豊かな緑は、「水と緑の詩のまち」として前橋市のシンボルになっている。
- 本地区は用途地域で商業地域に指定されていることから、中高層の集合住宅や立体駐車場、公共施設が見られるが、低層の戸建住宅も多く見られる。

- 広瀬川河畔地区に含まれる千代田町三丁目地区は、にぎわいと魅力ある中心市街地の再生を目指すとともに、広瀬川の自然環境との調和を目指す地区である。
- 本地区は、中心市街地の一部に位置付けられており、飲食店など商業施設が見られる。
- また千代田町三丁目地区は、区画整理事業により河畔緑地の拡幅や街区の整理が行われており、現状で更地となっているものも多い。



広瀬川の水と、柳の緑、萩原朔太郎氏の詩碑を眺められる、諏訪橋付近の景観

3-1-2 エリア視点からの景観色彩の特性把握

本地区の景観を特徴づけている景観資源の色彩の傾向を把握する。

(1) 景観資源の状況

地区内では、次のような景観資源が見られる。

色彩景観に彩りを与える自然	<ul style="list-style-type: none">● 広瀬川● 広瀬川河畔緑地● 柳● 花（紫陽花、ツツジなど）
落ち着いた色彩の工作物	<ul style="list-style-type: none">● 橋梁● 街灯● 休憩所● 詩碑● 石像
伝統的な素材や自然素材を用いた建造物	<ul style="list-style-type: none">● 公共施設・萩原朔太郎記念館（アトリエ・土蔵）● 公共施設・前橋文学館● 公共施設・広瀬川美術館● 住宅（戸建住宅・店舗併用住宅）

(2) 景観資源の色彩の特性

- 本地区の景観資源の色彩の特性は、自然の彩りを中心とした色彩の秩序が感じられることにあると言える。
- 広瀬川河畔緑地では広瀬川に沿って柳の緑が連なるほか、紫陽花やツツジなど季節の花による彩りが見られるなど、自然の色彩が基調となっている。
- 広瀬川河畔では橋梁、街灯、休憩所、詩碑、石像など散策を楽しむための工作物が整備されている。
- 橋梁や街灯、休憩所など塗装系の外装材を用いた工作物には、落ち着いた茶系の色彩が使われており、石材を用いた工作物とともに、自然の彩りを引き立てている。
- また萩原朔太郎記念館や前橋文学館、広瀬川美術館では、漆喰、木材、石材、レンガ、いぶし瓦など伝統的な素材や自然素材が使われており、その素材色が自然の彩りを基調とした色彩景観に深みを与えている。
- いぶし瓦は住宅（戸建住宅・店舗併用住宅）でも多く見られ、いぶし瓦と河畔の柳並木の連なりにより、風情の感じられる色彩景観となっている。
- 住宅（戸建住宅・店舗併用住宅）の外壁には、主に塗装系の外装材が用いられているが、その多くはやや色味の強い黄色にまとまっており、いぶし瓦や木材といった素材とともに、あたたかみのある色彩景観を形成している。



落ち着いた色彩の工作物



自然の色彩が映えるよう、周辺の建造物や工作物に落ち着いた色彩を使用した広瀬川河畔



季節による色の違いが見られる植物



温かみのある色彩の建築物



公共施設で用いられている伝統的な素材及び自然素材

4-1-3 建築物視点からの景観色彩の傾向把握

本地区の景観を形成している建築物及び工作物の色彩の傾向を把握する。

(1) 建築物等の色彩景観の概要

- 広瀬川河畔地区で中心となる低層の住宅には、主に暖色系の中彩度の外壁と和瓦の組み合わせが多く見られる。
- これらの落ち着いた色彩は広瀬川周辺の自然と調和しており、沿岸の緑を引き立てている。
- 一部、地区内には塗装系の外装材を用いて、モノトーン配色のように明度対比を強くしたものがあり、背景の緑と対比する要素となっている。

- 千代田町三丁目地区については、広瀬川周辺の緑と調和の取れた、戸建住宅の比較的落ち着いた暖色系低彩度色が中心となっている。
- 建築物の様式は多様化しているものの、色彩は暖色系の落ち着いた色調を基調としている。
- 一方、塗装系の外装材を使用した住宅が多いことから、色相の分布域が広がっている。

(2) 建造物及び工作物の色彩の使用状況 — 広瀬川河畔地区 悉皆調査 (千代田町三丁目地区に該当するものは(3)に記載する)

番号	名称	主要用途	階数	管理
001	レストランポンチ	店舗(飲食)	2	民間
				
部位	仕上材	マンセル値		
		色相	明度	彩度
外壁	吹付けタイル	10YR	7.0	3.5
備考				

番号	名称	主要用途	階数	管理
002	住宅	戸建住宅	2	民間
				
部位	仕上材	マンセル値		
		色相	明度	彩度
外壁	サイディング	10YR	6.5	1.0
屋根	化粧スレート	10YR	3.0	1.0
備考				

番号	名称	主要用途	階数	管理
003	グランヴィル前橋	集合住宅	10	民間
				
部位	仕上材	マンセル値		
		色相	明度	彩度
外壁	吹付けタイル	10YR	7.0	3.0
外壁	タイル	2.5YR	5.0	4.0
外壁(部分)	石材	10YR	4.0	1.0
備考				

番号	名称	主要用途	階数	管理
004	広瀬川河畔緑地トイレ	公衆トイレ	1	公共
				
部位	仕上材	マンセル値		
		色相	明度	彩度
外壁	塗装	2.5Y	8.5	1.0
備考				

4

分析と課題の抽出



4-1

広瀬川河畔地区 (千代田町三丁目地区を含有)

0YR ~ 5Y の低・中彩度色を
基調とした色彩

- 色相は、0YR(10R) ~ 5Y の暖色系色相を基調としている。一部でG系・B系などその他の色相が見られるが、全体のボリュームから見るとごく少数である。
- 明度は、やや幅があるが、全般には明るい色調が多い。
- 一部、明度対比が強い色彩を、白黒配色のように用いた例が見られる。
- 彩度は、6以下の比較的穏やかな色彩が主体であるが、彩度8ものが1例、通常はあまり見られないG系・B系の色相で2以上のものが4例見られ、周辺の緑と対比する要素となっている。
- 明度7以上の明るいYR ~ Y系の色彩で、やや色味の強い、彩度2 ~ 4のものが多く見られ、地域の特徴を作っている。

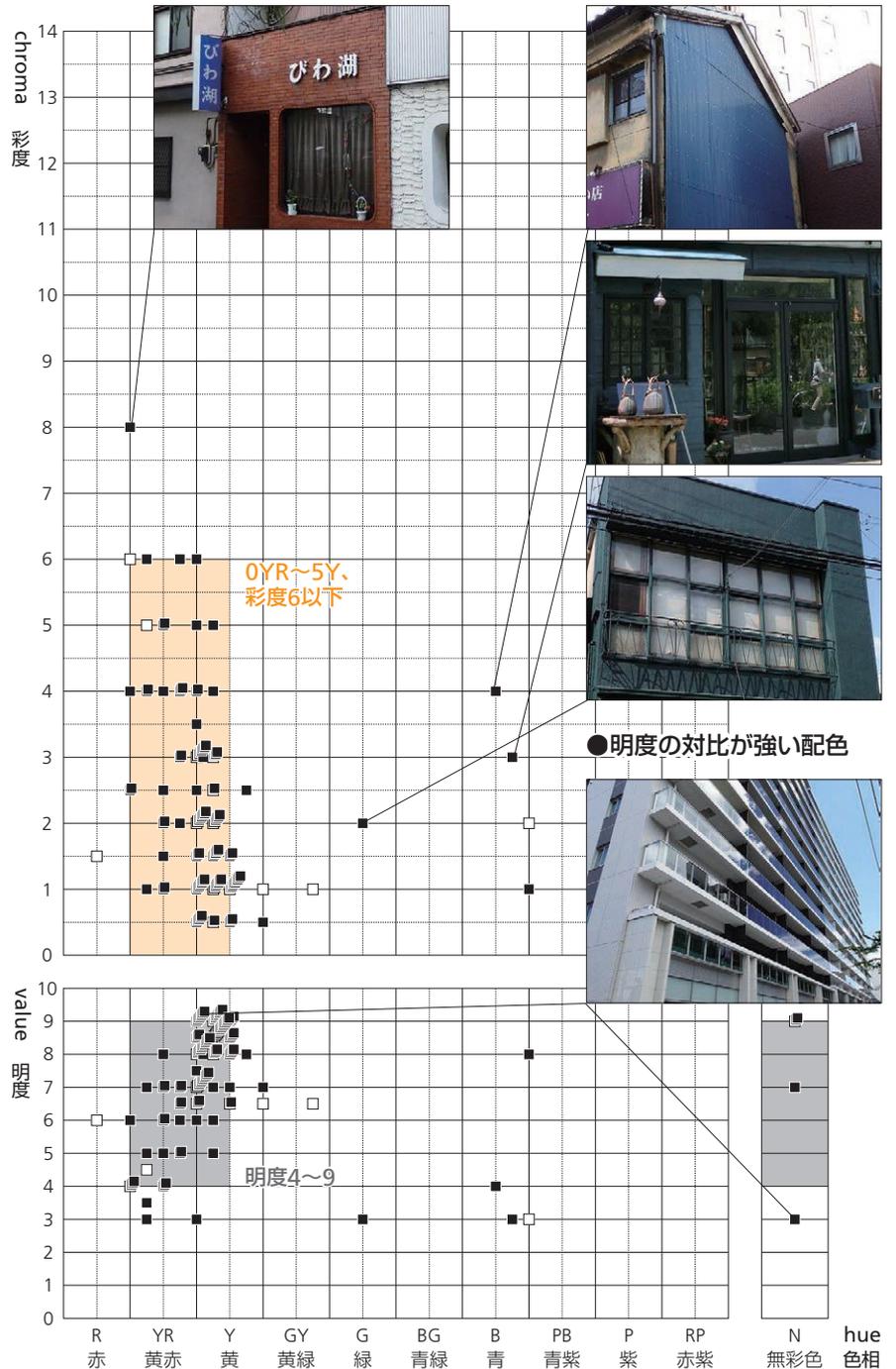
□ …千代田町三丁目地区にあるもの

調査数	調査対象建築物	84棟
	調査対象色数	122色

4-1-1 調査結果の傾向分析 (建築物・外壁基調色)

● 周辺より彩度が高いもの

● 周辺と色相が異なるもの



4-1-2 調査結果の傾向分析 (建築物・屋根基調色)

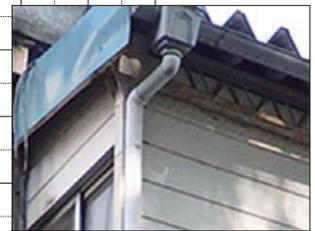
和瓦を中心とした、5YR~5Yの低彩度色を基本とした色彩

- 色相は、5YR～5Yの暖色系色相が基調となっており、特に5Y系の色相に集中している。これは和瓦で多く用いられている色相であり、周辺の自然を引き立てている。一方、B系の色彩が5例見られるが、これらは全て金属板塗装の屋根に用いられたものである。
- 明度は、3～5程度の比較的暗い色調にまとまっている。一方、明度7のものが1例見られ、周辺の緑との対比がやや強くなっている。
- 彩度は、大半が3以下であり、特に彩度1以下の極めて落ち着いた色彩に集中している。一部の和瓦（釉薬）では、彩度6の比較的鮮やかな色彩が見られる。また、B系の色彩は、彩度が2～4ほどあり、周辺の街並みからやや突出している。

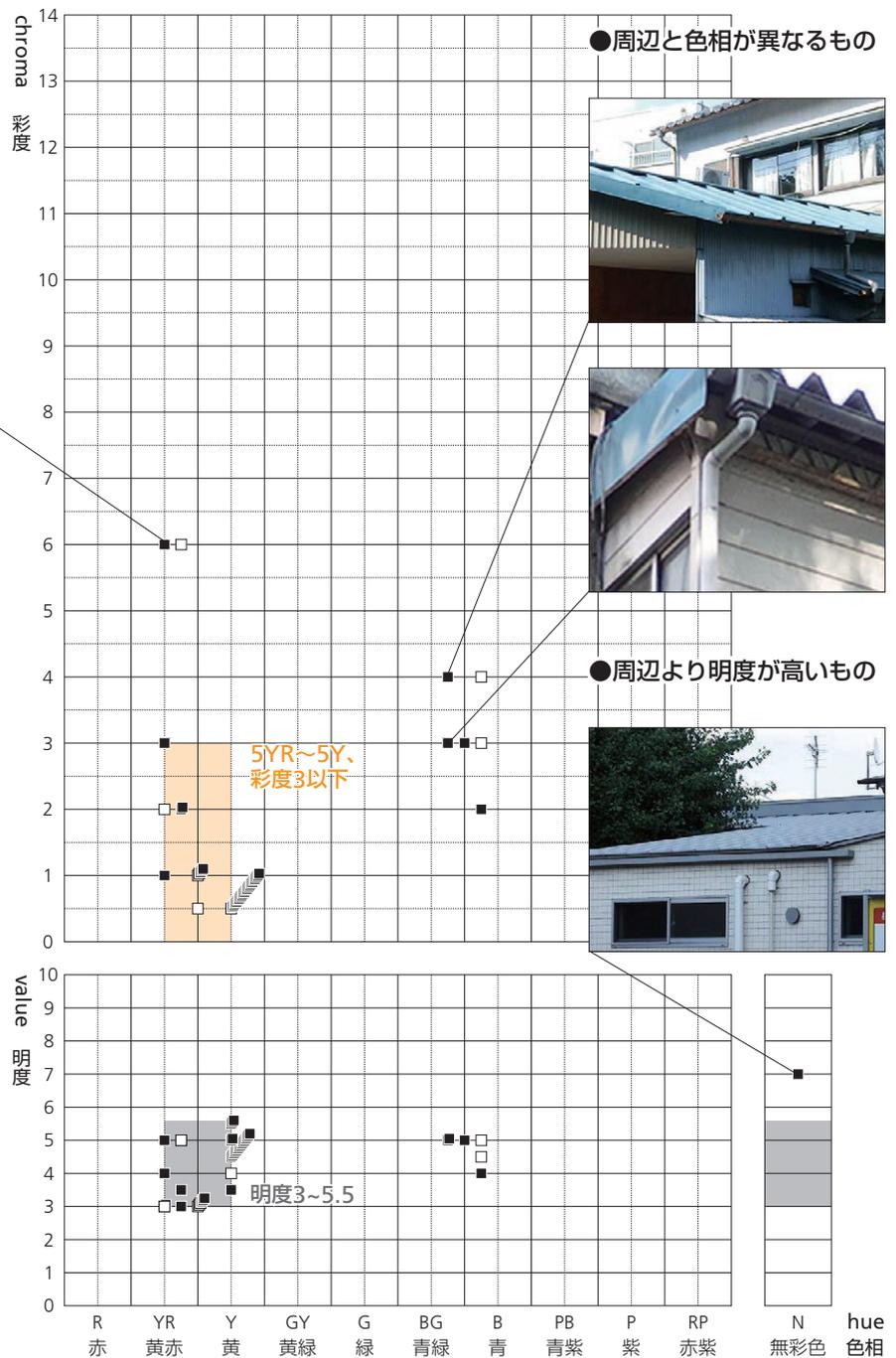
● 周辺より彩度が高いもの



● 周辺と色相が異なるもの



● 周辺より明度が高いもの

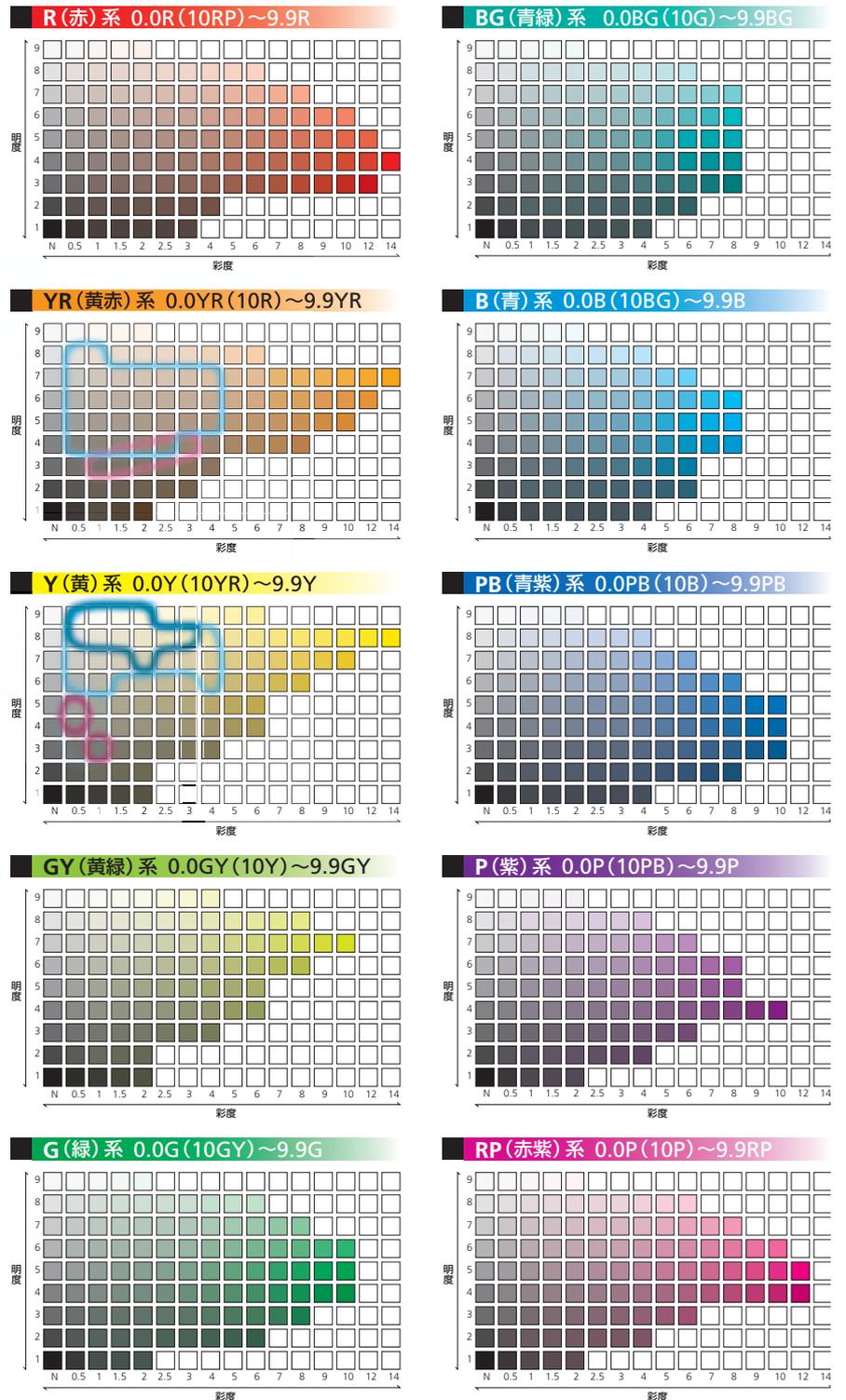


□ …千代田町三丁目地区にあるもの

調査数	調査対象建築物	42棟
	調査対象色数	42色

4-1-3 調査結果の傾向分析 (建築物)

色度図で示した、本地区で多く見られる建築物の外壁基調色及び屋根基調色の範囲を、下表の通りチャートで示す。



凡例

建築物・外壁基調色

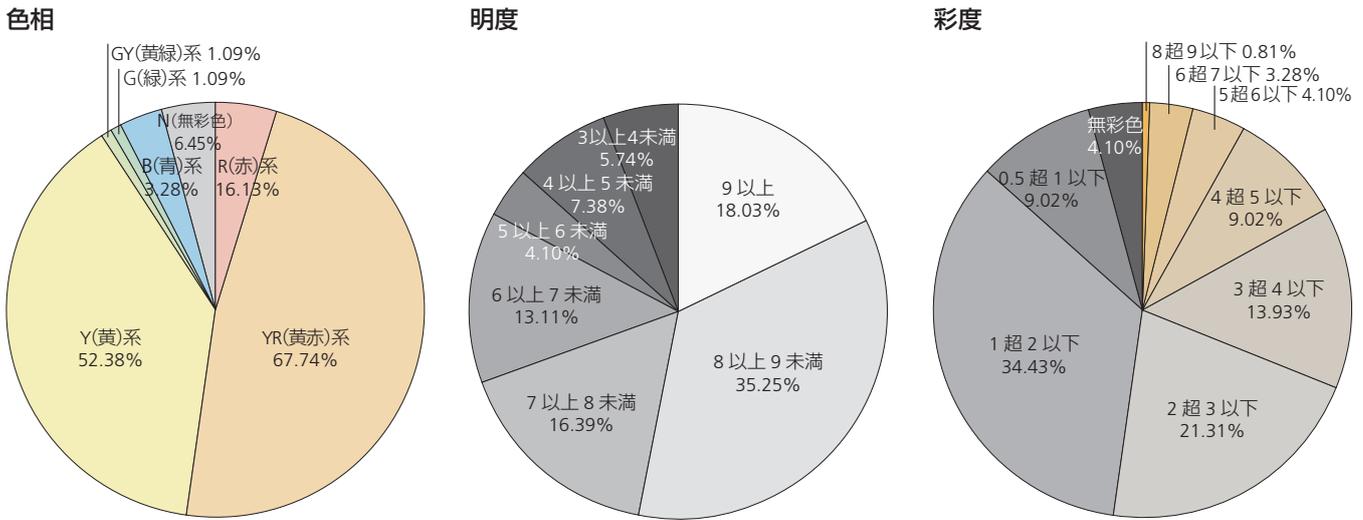
- 多く見られる色彩
- 特に多く見られる色彩

建築物・屋根基調色

- 多く見られる色彩
- 特に多く見られる色彩

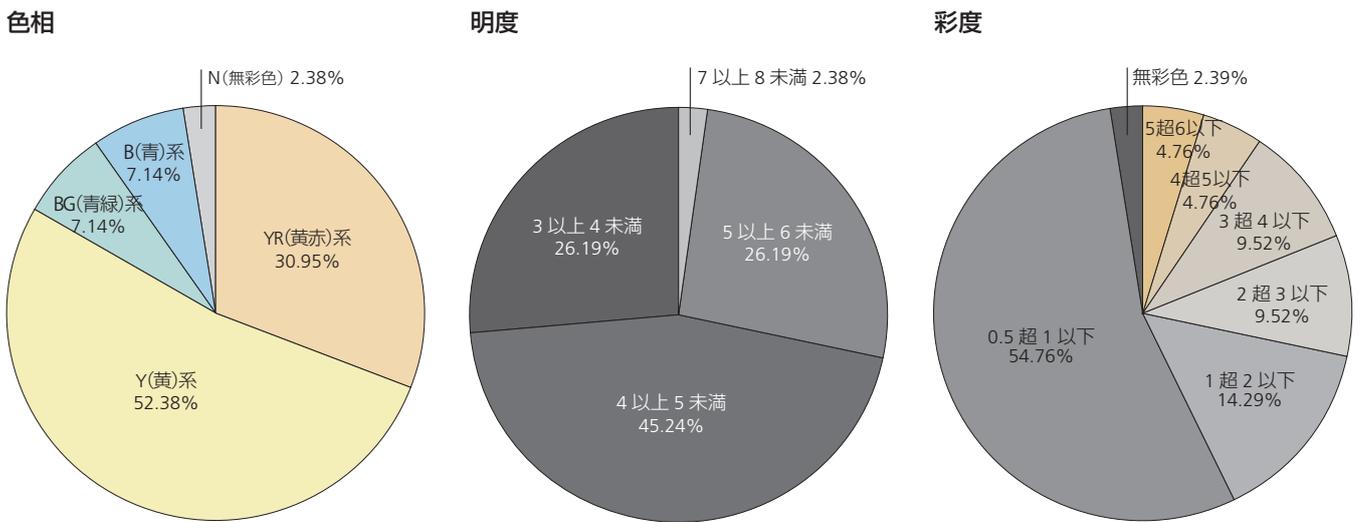
4-1-4 三属性別の色彩使用状況 (建築物)

(1) 外壁基調色



■ 図 円グラフ…外壁基調色 (n=122)

(2) 屋根基調色



■ 図 円グラフ…屋根基調色 (n=42)